（別紙様式１）

実施計画書

拠 点 の 名 称	（若年学生修学継続支援拠点）	形　　態	☑単独型 /　□ネットワーク型
学習センター名	福岡学習センター		
計　画　期　間	５年		
所 要 見 込 み 額	令和8年度所要見込み額費用　　4,215　千円 （計画実施期間中経費総額　　21,075　千円）		

1. 機能拠点の目的、必要性・重要性

【目的・目標】

増加する若年学生（入学時 10 代～20 代前半）の**修学継続支援を強化し、退学防止と卒業促進を図る支援モデルを構築・発信すること**を目的とする。

若年学生は、同年代との交流不足、経済的・健康面の不安、家族環境、基礎学力の弱さなど複数の困難を抱えやすく、従来の成人学生向け支援では対応が難しい。この課題に対し、福岡 SC では過去 4 年間、学長裁量経費を活用し、

- LINE による緩やかなつながり
- 若年学生担当客員教員による個別面談
- 対象学生の履修状況の把握と修学指導
- 研修旅行による学生間交流促進

などを組み合わせ若年学生への修学継続支援を行うことにより、**退学率を 42%→17%へと大幅改善**する成果を上げてきた。

本拠点ではこれらの実践を基盤に、

- 福岡 SC の支援方法・成果の公開
- 若年学生支援に関する全国 SC 間の情報交換（若年学生支援サミット）
- IR 室との協働による若年学生動向の把握
- 修学支援と接続した“準備段階のキャリア支援”の提案

を行い、全国的な若年学生支援の充実に寄与する。これにより若年層の卒業促進に加え、放送大学全体のレピュテーション向上と中長期的な学生確保にも資することを目指す。

【必要性・重要性】

不登校経験者や通信制高校出身者など、多様な背景をもつ若年層が増加している。OUJ でも若年学生が急増し、成人学生向けに最適化された従来のような修学支援では十分に対応できていない。

若年学生は、修学方法の理解不足、自己管理の弱さ、心理的な不安、生活・健康・経済面の課題など、複合的な理由により修学継続が困難になりやすい。実際に、若年層の退学率の高さは OUJ 全体の重要課題である。

福岡 SC では 4 年間の支援により、**「継続的に見守られていると感じられる環境」**が若年層の修学維持に極めて効果的であることを明らかにした。同様の課題は全国の SC にも共通しており、支援ノウハウの体系化と共有は学園全体の優先課題である。

したがって、本拠点は単なる地域的取り組みではなく、**全国規模で若年層の学びを支える基盤整備**に貢献する、教育的・社会的にも重要な取り組みである。

2. 取組内容の概要及び実施体制

【全体計画の概要】

本拠点は、福岡 SC の支援実践を基盤に、**若年学生支援の全国的な質向上**を目的とし、事業期間（5 年間）を通じて以下を行う。

- 福岡 SC の若年学生支援施策の継続・発展
- 若年学生支援サミットを中心とした全国 SC 間の情報交換
- 共有可能な支援方法・成功事例の整理と実用化
- 若年層向けキャリア支援の方向性の提示

支援サミットでは、各 SC が抱える事例や課題を持ち寄り、福岡 SC の実践と照らし合わせて改善策を検討する「共同検討の場」とし、全国的な支援力の向上をめざす。

【令和８年度に実施する計画】

初年度は、福岡 SC の支援基盤を強化するとともに、全国 SC との協働を開始する。

1) 福岡 SC における支援の継続強化

- 客員教員による個別面談
- LINE を活用した学生間交流と情報提供
- 新入学生向けオリエンテーション・相談会の実施
- 履修状況の把握と要修学支援学生への面談
- 面接授業・オンライン授業が苦手な学生へのサポート
- 若年学生研修旅行の継続と学生参画の促進

2) 若年学生支援サミット（第 1 回）の開催

- 福岡 SC の取り組み・成果の紹介
- 各 SC の課題共有・意見交換
- 共通課題および地域別課題の整理

  支援サミットは、全国 SC が自センターで支援を進めていくための起点とする。

3) 全国 SC との連携基盤の整備

- IR 室と協力し、全国的な若年学生の動向を把握（正式なレポートではなく情報共有レベル）

【中長期的な計画(2～5 年目)】

- 若年学生支援サミットの定期開催（年 1 回）
- 各センターが取り組める支援手法の共有とブラッシュアップ
- 若年層向けキャリア支援の体系化
- IR 室との連携による継続的な動向把握

【計画の実現に向けた実施体制等】

- 拠点責任者（福岡 SC 所長）

  全体統括・全国 SC との調整・サミット運営
- 若年学生担当客員教員（高校校長経験者）

  個別相談、LINE 運営助言、研修旅行企画、サミットでの事例紹介等
- 福岡 SC 教職員チーム（5～6 名）

  履修・単位進捗管理、学生対応、行事運営、サミット準備

3. 期待される効果

【学生確保への効果】

若年層の退学防止と卒業促進により、若年学生の修学成功事例が増え、**放送大学のレピュテーションが向上**する。若年層は進学・就職の場面で成果が社会に伝わりやすく、それが口コミとして広がることで社会的イメージおよび企業の採用意欲の向上と入学者の増加に寄与する。

【教育・学生支援の質向上】

若年学生特有の課題理解が全国に広がり、支援の質が向上する。
特に「見守られている環境」は若年学生の修学意欲を高め、勉学を続けられている自分を肯定的に捉える効果があり、退学防止に直結する。

【学習センター機能の強化】

福岡 SC で効果のあった支援方法は他 SC でも実践可能であり、全国的に支援力向上が期待できる。 サミットによる情報共有は全国の SC の横断的な連携強化にもつながる。

【社会的・地域的効果】

さまざまな不安や悩みを抱えて入学する若年学生が、支援を受けながら学びを継続し、自信や自己効力感を回復できる。これは若者の安定した進路形成の基盤となり、地域社会にとっても価値がある。

【中期事業計画等との関連性】

本拠点の取り組みは、学園の中期事業計画に掲げる項目と関連性が深い。

- **学習センター等の学びの拠点としての機能の充実（計画6）**
- **学習環境の確保・拡充（計画７）**
- **全学的な IR 推進体制の構築（計画21）**

また、国の掲げる「多様な学びの保障」「不登校経験者の進路支援」とも一致し、社会的要請に応える取り組みである。

【これまでの取組実績】

福岡 SC では、学長裁量経費を活用し、4 年間にわたり以下のような若年学生修学継続支援に取り組んできた。

- 若年学生担当の客員教員を配置
- LINE を活用した緩やかなつながりの形成
- 個別面談・履修状況の継続的把握と個別面談による修学支援
- 若年学生研修旅行の実施による学生間コミュニケーションの醸成
- 学び方座談会・卒業生体験談会など、多様な交流機会の提供

その結果、**退学率（42%→17%）の大幅改善や入学4年後の卒業率（17%→23%）上昇がみられた。**

4 年間で蓄積した知見は全国展開可能であり、本拠点の設置に十分な実効性と根拠を備えている。